



罷工のマスク製造

開記者たる加藤勘十平澤計七の両君も毎日の如く顔を出して其熱辯を吐いた。拍手喝采は嵐の如く起つて俱樂部の附近に居住してゐる會社の役員の心膽を寒むからしめた。品川署の高等刑事は愛嬌を振り蒔きながら何事をか聞き込めては歸つて行つた。

軍用金にマスク製造

恰も此時工場閉鎖が労働者の人格に對して挑戦したやうに、流行感冒が人間の生命に對して挑戦した。工場閉鎖對抗職工團は休業中を利用してマスクを製造し、一は感冒防止に貢献し、一は運動資金調達の一方法とした。案定するや直ちに一月十五日からマスク製造の部署を定め各分業とし、午前十時から十二時迄、午後零時三十分から二時三十分迄を其就業時間とした。労働者各自の自由意志に依つて營まれたるマスク製造―總てが立案も生産も販賣も組織も労働者のみに依つて營まれ

たるマスク製造―工場民主を要求して資本家に挑戦された結果、營む事となつたマスク製造―之こそは實に労働争議に新記録を作つたものとして、又將來の新社會を暗示するものとして頗る興味のあるものでなければならぬ。

マスク製造の總数は五千三百四十三個、内二百六十三個を見本として差引き、残る五千〇八十個が販賣個數である。此全収入金八百四十四圓六一錢、内材料及び道具買入金並に雜費の四百拾八圓四十一錢を差引四百二十六圓二十錢が利益金である。勿論此中には工賃が含まれてないが、休業中に四百二十六圓二十錢を得て運動資金に加へたと云ふ事は、其運動に對して多大なる効力を生ぜしめたものであつて、今後の労働争議中斯かる方法は労働者の繰り返して行ふ働であらう。

不誠意なる熊崎専務

不當解雇對抗團が斯くの如く秩序整然として持

久戦の覺悟を定め會社の反省を待ちつゝあるに際し、會社側は如何なる態度を採つたであらうか、初め職工等の謙讓なる態度を見た會社側は、正に會社の強硬なる態度に對し、職工が屈伏したかの如く見誤つた、時は恰も正月休みで其懐中の貧弱な時分だから會社側は、職工團が忽ち降服するものだと思つてゐた。園田社長は此問題に對する全權を熊崎専務及び澁谷工務課長に一任した。熊崎専務も亦直接職工側と接衝するを好まず萬事を澁谷工務課長が陣頭に立つて職工側と接戦する事となつた。然るに同氏は永らく横須賀の海軍工廠に奉職した官僚技師であつて、園池製作所に轉職したのは争議前二ヶ月である、従つて新空氣を吸ひ自由な氣分の満ちてゐる職工團の心理を察知するの能力無く、唯威壓を以て職工側に對する事のみを知つて居た、職工側は同氏と會見するの必要を認めず、時機の來るを待つてゐた。偶々日本鐵工株式會社の重役であり、同時に友愛會理事たる工